

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8045
FAX (0599) 25-8128
携帯電話 090-7612-2979
振替口座番号 00850-6-846



◆ 目 次 ◆

同窓会長・学校長 挨拶…………… 2	NPO法人故郷の海を愛する会の報告 …… 10
令和2年度本部会務報告…………… 4	支部だより…………… 12
令和3年度本部会務計画…………… 5	特集「我等! 鳥羽商船」…………… 14
令和2年度会計報告…………… 6	事務局報告…………… 24
令和3年度予算…………… 6	会員の異動等…………… 26
令和3年度 同窓会役員・理事…………… 7	寄付金・同窓会費納入一覧…………… 27
学校だより…………… 7	

同窓会長・学校長挨拶

創立140周年事業を 終えて次を思う

同窓会会長 **菅沼 延之**
S48N(88期)



昨年から全く収束が見えないコロナ禍の中、会員の皆様は日々公私にわたって如何お過ごしかと思いを馳せております。このような状況の中、政治や医療が混迷を極めている事を考えますと、いわゆる有事が起こった時、果たして我が国は国民・国土を守る十分な防衛対応ができるのかと肌寒く思うのは私だけではないでしょう。ただ唯一の救いは自動車産業など企業活動に勢いがある事で、光明の一筋と想っております。

さて、去る6月5日鳥羽の地で同窓会主催の140周年記念事業を執り行いました。コロナ感染を考慮し密を防ぐ為に少人数の参加者にて慰霊祭そして今上陛下が皇太子殿下時代の行啓記念碑の落成式を、和泉学校長、鈴木知事、中村鳥羽市長、野村県議、広県議他学校関係者並びに卒業生若干名のご臨席をいただき挙行出来ました事は誠に慶賀でありました。当日は朝から天気がぐずづいておりましたが、式典の間だけ晴天になりましたことは、平素からの私の願いであります母校繁栄・同窓長久・災障消除・諸縁吉祥を体現した一刻でありましたことをご報告させていただきます。

尚、中止になりました懇親会につきましては、状況を判断して後日実施することにしており、改めてお知らせいたしますのでお待ちくださいますようお願いいたします。

そして、同窓会として対応を考えなくてはならない事業が、母校創立150周年の御事です。私の基本的な考えは前年発行の会報で述べた通りで、一遍の迷いもありません。本年3月21日に三役および各支部長で会議を開いた際、本校創立年を明治8年に変更することの内諾を得ましたが、まだ理事会で諮ってはおりませんので、この11月に理事会を招集して同窓会としてどうするか決めたいと考えております。明治8年を創立年とするならば令和7年が創立150年となり、もはや4年後となりますので学

校側と協議を早急に進めなくてはなりません。

母校に帰り、近藤真琴先生の顕彰碑そして亡くなられた鳥羽商船の卒業者、職員並びに大東亜戦争海難の方々の慰霊碑の前でたたずむ時、先生や亡き先輩の方々が泉下でどのように考えておられるのか、いつも問いかけております。

変わらぬ事実は、明治8年創立の我が国最古の商船教育の学舎である航海測量習練所から母校への歴史の流れは途切れることなく連綿と現在まで続いていることでもあります。会員の皆様に、今一度青雲の志を新たにしてお考えくださり、私の提案にご賛同いただけますことを切に祈念いたします。

創立150周年・同窓会設立100年・新練習船登場と3つの慶事が重なることは以後ないものと考えます。

さあ、今こそ次世代の為に、150年の計を立てようではありませんか！

学校長挨拶

和泉 充



校長の和泉充です。4月から、林祐司校長の後任として着任しております。どうかよろしくお願い致します。140年の伝統と温かくも特徴ある、尖った一面をもつ商船高専として、SDGsを意識し、物流のグローバル化や自動運航船をはじめIoTの浸透により進化する産業社会で活躍する船舶の運航技術者、実践的産業人材の育成を進めていきます。

あっという間に8月になり、暦のうえでは、立秋を過ぎ、この稿を起こしている今日が21日、23日は処暑となります。毎日の虫の声も秋の気配を感じます。

この4月から7月を振り返って、本校では今日まで、国内や県内の医療体制をはじめとする諸状況を注視しながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、とくに校内や寮内での人から人への感染を出さないことに注力してきました。



名古屋メッキ工業株式会社
NAGOYA PLATING CO.,LTD.

本社
熱田工場・事務所
守破離工場
海のロマンス工場
櫻華工場

本社
〒467-0863 愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町4番6号
TEL/052-882-3954
<https://www.nagoya-mekki.com>

代表取締役
菅沼 延之(S48N・88期)

特に本科の授業においては、5月の連休明けの中間試験準備の週間を面接（対面）授業として中間試験まで全面登校、中間試験期間以降においては、実験・実習授業等を原則登校としながらも座学においては、遠隔方式をミックスして、少しでも学校での密度を下げることを目指しました。

6月21日からは、全面登校での面接授業を開始しました。学生のみなさんも遠隔授業や面接授業との混合形式など、戸惑ったでしょうが、よく頑張ってくれました。新入生のみなさんには、オリエンテーションで「学校は楽しい」と話しました。学校は、学修の機会や学力の保証のみならず、全人的な成長を保証する役割や、居場所、セーフティネットとしての精神的身体的な健康に寄与するという役割を担っており、「学校は学生の居場所」として在校生全員が、楽しいできごと、思い出となるエピソードが増えていくことを期待します。

続けて学園生活を楽しんでいくためにも、教職員と学生全員が感染症拡大への警戒を十分に行い、最も重要なこととして、毎日の検温と体調チェック、マスクをはずす場面、とりわけ食事やドリンクの際の人と人との距離の確保はいつも心がけることが大切です。ワクチンを接種した人も「いつでも、どこでも、だれとでも、人と人との間隔1mから2m、換気とマスク、手洗いと消毒を忘れずに…」、ニューノーマルの生活様式を堅持しなければなりません。体調チェックアプリへの入力や学生自身の休み期間中の自らの学修や諸活動の安全、友人や周りの人を守るため、休み中も欠かさず毎日続けることになっています。

保健所からの指導のもと、感染予防と拡大防止に取り組んで参ります。

6月26日から7月まで実施された第59回東海地区国立高等専門学校体育大会は、本校が主管校となっており、学生、保護者の方々はじめと体育、競技監督者・顧問、審判団、教職員の方々、三重県、また鈴鹿市、伊勢市、鳥羽市など多くの方々の深いご理解のもとでオンライン実施の弓道競技はじめ、多くの競技を各校の担当で無事に終えることができました。11月には、5商船高専による全国漕艇大会が広島商船高専を会場に、鳥羽商船高専を主管校として計画されています。夏季において本校では、校内漕艇大会を7月11日に行いました。

4月の入学式では、「他人をおもいやり、志をたてて進む」ことを話しました。これは、1年生のみ

ならず、全校の学生さん誰にでも通じることです。「志をたてて進む」。千里の道も一歩から、“急がずあせらずでなくて”と、そして、ときには、壁にあたったら一旦退く、そして終わり良ければすべてよし。ここで大事なことは何でしょうか、物事に取り組むときに「できない」「難しい」ではなく「どうしたらできるか、目標に近づくか」が大切です。

次に「他人を思いやる」。昨今、インターネットを通じて遠くで近い友あり、また、対面オフラインで近くの友もあります。思いやり、いつも大事です。ネットでは、対面と異なり、相手や自分の今の気持ちや思いが十分に伝わらない場合があります。そのようなときには、送信前にちょっと待て、見直し、見直し、いつも相手への思いやりが大事です。そうすれば、相手も思いやってくれます。15歳からの年代、昨今のコミュニケーションの実際は大人の世代が想像するものと大きく異なるものがあります。

学校は、担任はじめ教職員、保護者の方々との密な連携のもと、多感な年代にある学生諸君との不断の対話を通して、健康で充実した5年半ないし5年の通貫した学修と生活ができるよう取り組んでいきます。

さて、校内、寮を問わず環境と衛生の維持管理は大切です。ニューノーマル、新しい生活様式の時代に入り、これまでの規則を遵守することはもちろんですが、この1-2年間の経験を生かした校内や寮での日頃の生活の新たな過ごし方をみなさんと検討していきます。現在の学生寮は、感染症拡大防止の観点で全室を個室として運用しており、現状では、来年度新たな新入生を迎えるにあたり、上級生を含めて希望者全員を収容できる見通しは厳しいものがあります。寮則に則り、在寮継続希望者とともに年度ごとの選考となりますが、中学を卒業し、本校への期待をもって新たに入学する遠方からの学生には、寮則をよく読んで理解したうえで、希望すれば初年度は全員入寮できて、高専の学修生活に早く慣れてもらいたいものです。また、高学年にあっては、学校周辺や伊勢市等に居住地域社会、歴史や文化にも親しむことも、日頃の学修に相補して二度とない学生生活をさらに充実させる選択肢のひとつとされます。

ここ鳥羽、伊勢、志摩は、豊かな自然と歴史や文化があります。これだけ風光明媚な立地の国立高等専門学校は少ないと思います。学生は、これらの名勝、史跡、博物館や美術館など、多くに触れること



(4)

ができます。この稿が皆様のお目にとまる時期には、もう閉幕していることと思いますが、オリンピック、パラリンピックは、平和を希求し、国際協調の願を込めた祭典ですが、一方で、座して平和や安全が得られることはありません。進んでひろく我が国や世界各国の歴史を知って、これまでの先人や国家がどのような状況で、どのような場面でどのような判断をしたかを理解することは、個人、組織、国家の戦略だてに不可欠です。歴史から得られる教訓は、学生にとって、在学中や卒業後の社会における、さまざまな岐路、判断を求められる際にもおおいに参考になります。この鳥羽の地で学ぶ間に、鳥羽の歴史はもちろん、我が国や世界の歴史と文化に触れてほしいと思います。

令和3年7月16日(金)に本校と校祖(近藤真琴先生)を同じくする兄弟校攻玉社中学校・高等学校を訪問し、岡田貴之校長と面談し、機会を捉えて交流を進めることを話し合いました。本校は、今年で創立140周年を迎え、高専は来年60周年を迎えます。学校の施設整備についても、このような素晴らしい環境の中であって、今後どのように環境整備をしていけばよいか。地域課題研究をはじめ、地域の自治体や産業界との連携を大事にしながら、「温かくも特徴ある、尖った一面をもつ」鳥羽商船高専の絵姿を描いていきたいと思っています。同窓会のみなさんからのご意見をお待ちしています。モノづくり力にたけた高専こそ、情報技術と掛け合わせた新産業創造をリードできるといわれています。この4月から8月の間も、本校学生のDICONなどのコンテストでの全国2位、「トビタテ!留学JAPAN~日本代表プログラム~」に採択-第7期壮行会オープニングムービーに参加など、コロナ禍においても本校学生の活躍が多数、本校ホームページで御覧になれます。

今後の感染症の状況は不透明ですが、状況に合わせて、学生、教職員の安全と安心を確保しつつ対応していく所存です。貴同窓会におかれましては、学生及び本校に対しまして変わらずのご支援をいただきますよう深甚よりお願い申し上げます。

本部報告

令和2年度 本代会務報告

①会議

- イ) 特別理事会 令和2年5月22日~6月2日(書面、メール理事会)
コロナ禍の為、メール理事会を開催しメールと書面による全議案承認を得る。
- ロ) オンライン会議導入の提案と試験的に支部長とズーム会議を開催するが多人数では難しく模索中。

②会報発行

令和2年10月1日 会員約3,700名に発送

③事務局主要活動

- R2年4月16日 総会案内発送作業
事務協、伊勢志摩支部会員11名参加
- 5月~6月 理事会、総会準備
- 6月18日 会長と事務局打合せ
- 8月7日 林裕司校長訪問
菅沼会長、江崎事務局長、西山会計
- 9月13日 船歌集打合せ 於 河芸マリーナ
- 9月23日 商船学科卒業式
コロナ禍の為、昨年に引き続き大幅縮小、同窓会は出席せず。
新卒者情報、新入会費集金現場で活動できず。
- 11月1日 船歌集製作打ち合わせ
於 四日市ダイイチ
- 11月15日 船歌集製作打ち合わせ
於 いせトピア
- 11月22~23日 船歌集試聴打ち合わせ
於 伊勢シンフォニア響ホール
- 11月24日 船歌集試聴打ち合わせ
於 四日市ダイイチ
- 12月 母校受験支援
母校入学試験受験者を増やすため、関西、中部、東日本支部の理事の協

力を得て、母校の学校案内と受験パンフレットを関係中学校に配布。

R 3年1月28日 CD、DVD制作担当委員会議

音楽著作権、作者不明の曲の対策協議

3月14日 電子機械工学科、制御情報工学科卒業式

コロナ禍の為昨年に続き大幅に縮小され、新入会員の情報が現場で収集できず。

3月21日 支部長会 於 名古屋会議室

- ①コロナ禍継続により、理事会を今年もメール会議開催、総会は中止。
- ②理事会上程議案について協議。
- ③140周年記念事業5月末完成に延期、船歌集は著作権問題で完成は夏頃に延びますとの報告。
- ④母校創立年について意見具申。

令和2年度はコロナ禍の為多くの行事が中止になり寂しい1年でしたが、事務局は140周年記念事業に多忙を極めました。

特に船歌集担当の西山明理事、溝井昇理事、濱地安実理事には大変な労力と時間を費やしありがとうございます。

と鳥羽商船高専の練習船で体験航海

参加者 子供達45名、同窓ボランティア11名

8月19日 故郷の海を愛する会 伊勢湾フェリーに乗船し、伊良湖で渥美半島の自然観察をする。

コロナ蔓延防止の為、中止。

9月23日 S科卒業式 大巾に縮小予定。

10月9日 故郷の海を愛する会 潮騒の神島にわたり、伊良湖水道の見学と神島の自然観察をする。

10月 同窓会報発行

11月 理事会予定

12月11日 故郷の海を愛する会 遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話。

3月19日 M、I科卒業式



6月1日 除幕式前の除草清掃作業



清掃作業後、近藤真琴翁の案内板と記念写真



6月4日 除幕式の様子

令和3年度 本部会務計画

令和3年4月～令和4年3月

4月6日 入学式 本科S、M、I、専攻科 大幅に縮小し開催

攻玉社同窓会、戦没、殉職船員追悼式は昨年に続き、今年も中止と決定。

5月 理事会（メール、書面会議）

6月5日 物故者慰霊祭

140周年記念事業贈呈式及び除幕式

参加者 鈴木三重県知事、中村鳥羽市長、野村県議、広島議 和泉校長、伊藤副校長、坂野事務部長、男子寮長小林駿汰君、女子寮長江口佐代子さん、奨学後援会鳥山会長、菅沼会長他伊勢志摩支部理事8名

8月4日 故郷の海を愛する会 JMU津造船所見学



東京湾水先区水先人会

坂崎 清 (S40N)
飯野 実 (S44N)
藤本 良夫 (S51N)

中川 敏 (S40N)
石川 富朗 (S47N)
木場 弘幸 (S53N)

三村 徳蔵 (S40N)
高木 春男 (S49N)

令和2年度 会計報告

自 令和2年4月1日 ～ 至 令和3年3月31日

現金・預金

※比較増減＝期末－期首

勘定科目	期首金額	収入	支出	期末金額	比較増減
現金	0			0	0
普通預金計	2,654,269	24,749,875	22,680,989	4,723,155	2,068,886
定期預金計	21,375,022	1,132	985	21,375,169	147
現金・預金合計	24,029,291	24,751,007	22,681,974	26,098,324	2,069,033

収入の部

※比較増減＝決算金額－予算

科目	2年度予算	決算金額	比較増減
会費	2,840,000	2,868,233	28,233
寄付金収入	4,560,000	5,689,612	1,129,612
スポンサー広告収入	200,000	212,500	12,500
雑収入	360,000	227,510	-132,490
受取利息	2,140	1,152	-988
預かり金処理 (会費・名簿等)	0	52,000	52,000
本会計より繰り入れ	591,760	0	-591,760
収入合計	8,553,900	9,051,007	497,107

支出の部

科目	2年度予算	決算金額	比較増減
負担金	650,000	140,000	-510,000
総会費	400,000	375,817	-24,183
会報・会員名簿	780,000	810,896	30,896
対外活動費	231,000	73,000	-158,000
支部活動費	512,000	542,000	30,000
旅費交通費	700,000	103,000	-597,000
事務消耗品費	293,000	344,865	51,865
会議費	20,000	27,670	7,670
会務運営費	317,900	375,174	57,274
外部委託費	600,000	600,000	0
特別予算1 本校紹介活動等	200,000	250,790	50,790
特別予算2 OBカッター大会 (母校のコロナ 対策支援に変更)	150,000	500,000	350,000
特別予算3 プロコン等支援	100,000	0	-100,000
特別予算4 140周年記念事業	3,500,000	2,755,130	-744,870
雑支出	100,000	83,632	-16,368
支出合計	8,553,900	6,981,974	-1,571,926

収入の部では、対予算約50万円の増となりました。主要因は140周年記念事業の寄付金、協賛金合計で約514万円、通常の寄付金は約54万円あり合計で約569万円となりました。

支出の部では対予算約157万円少なくなりました。主要因はコロナ感染対策の為、卒業式を始め多くの催事が中止となったことです。母校のコロナ感染対策50万円を中止になった特別予算項目から用途変更し支援しました。この他140周年記念事業の一つであるDVD製作費に約275万円を支出しました。

(※理事会資料で比較増減金額計に間違いがあり、訂正お詫びします)

令和2年度 会計監査報告

令和2年度期初、期末の銀行等の残高証明の確認を行い、今年度の収支に関しては領収書、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

令和3年5月11日

会計監査 武部二三男

会計監査 竹川 俊幸



令和3年度 予算

自 令和3年4月1日 ～ 至 令和4年3月31日

収入の部

※比較増減＝令和3年予算－実績

科目・内訳	前年度収入実績	3年度予算	増減比較
会費	2,868,233	2,816,000	-52,233
寄付金収入	5,689,612	2,460,000	-3,229,612
スポンサー広告収入	212,500	220,000	7,500
雑収入	227,510	3,079,000	2,851,490
受取利息	1,152	1,038	-114
預かり金(会費・名簿等)	52,000	0	-52,000
前年会計より繰り越し	0	2,354,982	2,354,982
収入合計	9,051,007	10,931,020	1,880,013

※140周年記念事業の寄付金は減少する見込。

※140周年記念事業の寄付協賛金繰り越しCD、DVDの頒布による収入増見込。

支出の部

※比較増減＝令和3年予算－実績

科目・内訳	前年度支出実績	3年度予算	増減比較
負担金	140,000	650,000	510,000
総会費	375,817	1,760,000	1,384,183
会報・会員名簿	810,896	950,000	139,104
対外活動費	73,000	231,000	158,000
支部活動費	542,000	542,000	0
旅費交通費	103,000	500,000	397,000
事務消耗品費	344,865	293,000	-51,865
会議費	27,670	60,000	32,330
会務運営費	375,174	397,020	21,846
外部委託費	600,000	600,000	0
特別予算1 (本校紹介活動等)	250,790	200,000	-50,790
特別予算2 (母校支援)	500,000	250,000	-250,000
特別予算3 (プロコン等支援)	0	100,000	100,000
特別予算4 (140周年記念事業)	2,755,130	4,278,000	1,522,870
雑支出	82,647	120,000	37,353
支出合計	6,980,989	10,931,020	3,950,031

※特別予算4の内訳は、行啓記念碑120万、記念碑保守費50万、案内板33万、DVD224万(前年繰越235万)



大阪湾水先区水先人会

田中 忠士 (S38N) 河口 長弘 (S40N) 南方 日出一 (S40N) 藤本 昌之 (S42N)
 鹿野 秀治 (S48N) 小山 道夫 (S49N) 山本 隆史 (S52N) 山本 丈司 (S54N)
 習田 誠至 (S55N) 濱地 義法 (H4N) 蛸積 史丸 (H12N)

令和3年度 同窓会役員・理事

※ 黄色は新任 ※ 灰色は退任
※ ()内数は前回数 ※ 赤字は理事会での承認後決定

本部

会長	1	菅沼 延之	S48N	事務局長	1	江崎 隆夫	S44E
副会長 (3)		田中 潔	S52N	事務局 (9)		溝井 昇	S42E
		加塚 伸吾	S52E			三井 健次	S43E
		江崎 修央	H 4M			濱地 安実	S47E
相談役 (6)		古川 昭一	S30E			山口 伸輔	S48N
		桑嶋 収平	S31N			江尻 潜	S48E
		菅原 昌男	S33N			木下 勝	S49E
		松浦 肇	S36N			西山 明	S50E
		藤本 昌之	S42N			畑 辰幸	S51N
会計	1	西山 明	S50E			北端 大志	H 8N
会計監査	2	武部二三男	S38N	学校連絡	1	小島 智恵	H14N
		竹川 俊幸	S42E				
名誉顧問 (3)		落合 弘明	元同窓会長				
		菱田 司	元同窓会長				
		田中 三郎	前同窓会長				
特別顧問 (3)		和泉 充	学校長				
		伊藤 友仁	副校長				
		坂野 利宏	事務部長				

★令和3年6月3日のメール・書面理事会において、四日市支部、伊勢志摩支部の理事数増加変更について承認決議され運営細則が下記のように改訂されました。下記は該当する運営細則第4条で、改訂された理事数を赤字で示します。

※括弧内の数字は改訂前の数

(理事)

第4条 各支部選出の理事数については当面次のとおりとする。

(1) 東日本支部	11名
(2) 中部支部	6名
(3) 四日市支部	6名 (5名)
(4) 伊勢志摩支部	16名 (15名)
(5) 関西支部	8名
(6) 西日本支部	2名

理事総数の上限は50名以内とする。

附則
1、この細則は令和3年6月3日から施行する。

学校だより

年間行事 (暦順に掲載)

支部 (理事総数49名)

東日本支部 11(11)			伊勢志摩支部 16(15)			
支部長	福山 道夫	S41N	支部長	三井 健次	S43E	
理事	岩田 仁	S38E	理事	川口 心也	S40E	
	飯島 寿	S41E		溝井 昇	S42E	
	大橋 泰夫	S48N		江崎 隆夫	S44E	
	水野 博之	S48N		濱地 安実	S47E	
	奥田 宣夫	S48E		山口 伸輔	S48N	
	菅原 秀樹	S51N		木下 勝	S49E	
	稲益 義久	S51N		西山 明	S50E	
	星野 芳昭	S52E		畑 辰幸	S51N	
	真治 正章	H8N		塩野 明俊	S56E	
	亀山 信吾	H1E		齋心 俊憲	H1M	
	小西 智子	H16N		出江 幸重	H3M	
中部支部 6(6)			関西支部 8(8)			
支部長	山川 博之	S53N	支部長	習田 誠至	S55N	
	山口 淳	S61N		理事	藤本 昌之	S42N
理事	小林 正司	S43N		村木 国夫	S48N	
	宗接万太郎	S48N		田中 潔	S52N	
	菅沼 延之	S48N		村田 佳久	S55N	
	加塚 伸吾	S52E		国安 政幸	S58N	
四日市支部 6(5)			理事	山本 和之	S59N	
支部長	西井 育央	S61E			清家 将之	S60N
	待井 健司	H2N			福田 美和	H7N
理事	室 博也	S55N		西日本支部 2(2)		
	西井 育央	S61E		支部長	中野 正義	S41N
	伊藤 英樹	H4E		理事	神子 功	S48E
	相良 球一	H6N				
	西村 崇	H6I				

第49回商船学科卒業証書授与式並びに 第13回専攻科 (海事システム学専攻) 修了証書授与式を挙行

令和2年9月29日(火)、第49回商船学科卒業証書授与式並びに第13回専攻科 (海事システム学専攻) 修了証書授与式を挙行了いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、規模を縮小したものとなりました。

林校長から商船学科卒業生33名に卒業証書、専攻科 (海事システム学専攻) 修了生1名に修了証書が手渡された後、「友達を大切にし、自分の命、家族の命、周りの人々の命を大切にして、今後取り組むべき仕事で社会に貢献されることを祈念いたします。恐れずに弛まらずに、希望という輝く星に向けてそれぞれの針路をセットしてください。」と式辞が述べられました。

式の最後に、白い制服姿の卒業生全員が一列に並び、保護者に向かって「ごきげんよう」と挨拶し、帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンスを行い、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立って行きました。



2020年度、電子機械工学科及び制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を挙行

令和3年3月14日（日）、第32回電子機械工学科及び第29回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第15回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を挙行いたしました。

新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、出席者は卒業生、修了生、関係教職員と限定し、保護者及び在校生は、ライブ配信にて自宅等から式典の様子をご覧いただきました。

式当日は前日までの悪天から一変し、雲一つない快晴の中、林校長より電子機械工学科28名、制御情報工学科44名の代表者それぞれへ卒業証書を、専攻科（生産システム工学専攻）12名の代表者へ修了証書が手渡された後、林校長より、「進取、礼讓、質実剛健」という人間力をいかに発揮されて、どのような環境で生活・仕事をして、世界の人々と真正面から向き合い、勇気と自信をもって、誰も見たことのない新しい世界へ第一歩を踏み出してください。母校は、皆さんをずっと、ずっと見守っています。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



各種コンテスト

第31回高専プロコンで特別賞を受賞

令和2年10月10日（土）、11日（日）にオンライン開催された第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（苦小牧大会）にて、本校の出場チームが課題部門にて特別賞を受賞しました。

【課題部門】

「楽しく学び合える！」をテーマにした作品

【作品名】

「ISHINDENSHIN」

【コンセプト】

スマホでバレーボールのサーブ分析ができ、チーム内での分析結果を共有・教え合うことができます。COVID-19感染拡大のなか、部活動ができなくて悩んでいるあなたを支援します。



第2回全国高等専門学校DCONで2位獲得

第2回全国高等専門学校DCON（Deep Learning Contest）は、高等専門学校生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。

コンテストは2回の予選と本選から構成されており、40作品が予選に応募し、本校から出場していたezaki-labが提案した「NoRIoT」が企業評価額5億、投資額1億の評価をいただき第2位となりました。

応募作品「NoRIoT」は、三重県で盛んな海苔養殖の支援をする仕組みで、地元企業と共同開発した海洋観測機を用いて、各養殖場の最適な海苔網高さの提案やカモや魚による食害被害の低減を実現するものです。



高専ワイヤレスIoTコンテスト2020でスマート水産大賞を受賞

総務省主催の「高専ワイヤレスIoTコンテスト」は、地域に密着しつつ高度な技術者を育成している高等専門学校で育まれている学生の技術力や独創的なアイデアを、地域におけるワイヤレスIoT及び5Gを含めた電波事業の新たなサービスに繋げていくことを目的に開催されています。2020年度の当該コンテストにおいて、本校から出場した学生チームが「漁業者と連携したAIを活用した伊勢湾の藻場の可視化・保全」というテーマで、スマート水産大賞を受賞いたしました。



和歌山下津水先区水先人会

畑 辰幸 (S51N) 清水 貢 (S56N)



鹿島水先区水先人会

郡 茂典 (S50N) 大原 智喜 (S57N)

注目クラブ活動

高専大会（剣道競技）にて女子団体が準優勝

令和3年6月26日（土）・27日（日）に開催された第59回東海地区高等専門学校体育大会（剣道競技）にて、鳥羽商船高専が女子団体に準優勝いたしました。



高専大会（バドミントン競技）にて男子個人3位、男子・女子団体準優勝

令和3年6月26日（土）・27日（日）に開催された第59回東海地区高等専門学校体育大会（バドミントン競技）にて、鳥羽商船高専が男子個人戦で3位、男子団体戦・女子団体戦にて準優勝いたしました。



地域活動・地域貢献

公開講座「サイテクラッドin鳥羽商船高専2021」及び英文多読講座を開催

本校では、令和3年7月31日（土）から8月25日（水）の間、公開講座「サイテクラッドin鳥羽商船高専2021」（8講座）及び英文多読講座を開催いたしました。

公開講座は、広く地域社会に学習の機会を提供することを目的として毎年開催しており、今年度の講座は小型船舶あさ

ま艇で鳥羽湾クルーズやカッター体験、ものづくり、プログラミング、理科実験など幅広い内容で実施いたしました。



教職員人事

採用

校長	和泉 充
商船学科 准教授	山田 智貴
一般教育科 講師	ニコルソン シヨーン・チャールズ
情報機械システム工学科 助教	中古賀 理
一般教育科 助教	山中 郷史
テクノセンター	山口 雄大
テクノセンター	井田 雄人

転入

総務課長補佐（総務担当）兼人事労務係長	
兼企画・地域連携係長	水野 英昭
総務課長補佐（財務担当）兼財務・経理係長	
	三井 明
総務課企画・地域連携係	高尾 毅
総務課人事労務係	岡村 梨瑚
学生課長	國枝 和代
学生課長補佐兼図書係長	内田 友和

同窓生の本校教職員

齊心 俊憲 (H1N)	鳥羽丸船長
大野 伸良 (S56E)	鳥羽丸機関長
山野 武彦 (H10E)	鳥羽丸一等機関士
小島 智恵 (H14N)	商船学科准教授
出江 幸重 (H3M)	情報機械システム工学科教授
江崎 修央 (H4M)	情報機械システム工学科教授
中井 一文 (H16I)	情報機械システム工学科准教授
竹内 晃輔 (H7I)	学生課学生生活係
谷水 志帆 (H16N)	テクノセンター技術職員
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術職員
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術職員
山口 雄大 (H20M)	テクノセンター技術職員
井田 雄人 (H22M)	テクノセンター技術職員
三重野崇亮 (H23I)	テクノセンター技術職員
金子 将也 (H22E)	鳥羽丸技術職員



伊勢三河湾水先区水先人会

田中 俊彦 (S50N)
町 裕次 (S52N)
西濱 卓己 (S54N)
門奈 克明 (S62N)

鶴飼 幹夫 (S52N)
森内 芳卓 (S52N)
増島 忠弘 (S54N)

畑内 康孝 (S52N)
鈴木 晴敏 (S54N)
原 秀男 (S56N)

鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部の有志が立ち上げた故郷の海を愛する会は子供たちにもっと船や海を知ってもらおうと活動を開始して13年目となりました。

昨年は新型コロナの感染拡大があり、計画していた4つの活動を全て中止としました。誠に残念でした。

今年は新型コロナの収束は見えませんが、感染防止対策をしっかりと取り活動を再開しようと計画しました。

◆令和2年度事業報告

*活動について

令和2年度の活動は上記の通り、新型コロナ感染防止の為に、計画していた事業名「海から始まる物語 IN 2020」の4つの活動を中止しました。

その他の活動として、

アサギマダラを呼ぶプロジェクト

毎年10月頃に蝶のアサギマダラが日本の高地から遠く南の島に向けて2000キロも飛んでゆきます。あの小さいからだでひらひらと、どこにそんな力があるのでしょうか。ロマンを感じます。

その旅の途中でフジバカマやアザミの蜜を吸って体力をつけて、再び南に向かって飛んでゆきます。三重県では鳥羽の神島や伊勢市・松阪市・津市・熊野市などでアサギマダラの飛来を見ることが出来ます。

私たちはアサギマダラの食草であるフジバカマを育て花を咲かせて、アサギマダラを呼ぼうと考えました。

考えに賛同の会員が母校の庭や伊勢市・鳥羽市の自宅の庭にフジバカマを育てています。

アサギマダラの飛来は多いところで20頭を超え、母校の庭やその他会員の庭にも現れました。



アザミの花の蜜を吸う
アサギマダラ



母校百周年記念館前の
フジバカマ畑

*収支について

計画していた「海から始まる物語…」は中止したので、助成を頂いたところには返金をし、助成頂けたところは辞退しました。

会費や寄付を従来と同様に頂けたので、繰越金が発生しています。

活動計算書の概略は以下の通りです。

繰越金は令和3年度の活動に使わせて頂きます。

令和2年度活動計算書

収入	金額	支出	金額
受取会費	63,000	事業費 業務委託費	50,000
受取寄付	454,000	管理費 雑費	80,664
受取助成金等	50,000		
その他	4		
合計	567,004	合計	130,664
		当期正味増減額	436,340
		繰越金額	-71,063
		次期繰越金額	365,277

◆令和3年度の活動について

令和2年度は新型コロナの先が全く読めず、感染拡大防止の為に活動を中止しましたが、世間では時間の経過とともに感染防止対策が色々と取られるようになりました。当会の活動に関係するバスやフェリーなどの乗り物の抗ウイルス・抗菌対策がされるようになり、JMU造船所では昨年10月に「津市の小学生をバス車中で構内案内」を再開しました。

令和3年度の活動を計画するにあたり、新型コロナが収束する見通しは立っていませんでしたが、新型コロナの感染防止対策が色々取られるようになり、又、高齢者（当会の主たるスタッフが高齢者）へのワクチン接種が7月中に終わりそうであったので、新型コロナに関し三重県の指針に沿い、感染防止対策を十分に取って活動を再開することを決めました。

新型コロナ感染防止対策

8月4日に活動その①を実施しましたが、その際の新型コロナの感染防止対策としては以下の通りです。

・参加者の限定、削減

募集対象区域を三重県の中南勢地区としました。（北勢や県外からも参加して頂いていたのですが）募集対象学年を小学5・6年生と中学生のみとしました。（募集対象の弟や妹も参加して頂いていたのですが）募集員数をバスの定員の半数以下として従来より削減しました。

・スタッフは新型コロナのワクチン接種済

主催者から新型コロナを子供たちに移すことのないように、スタッフはワクチン接種2回済と限定しました。7月中には2回の接種が終わり活動に間に合いました。

・体調チェック

参加者には事前に体調チェックリストを配りました。夫々体調管理して頂き、体温の記録を含めたチェックリストを当日提出して頂きました。主催者スタッフも同様にチェックしました。当日の参加者全員の体温チェックも行いました。

・活動に際しては

スタッフが消毒用アルコールを持参し、参加者の都度の手指の消毒に努めました。食事中以外はマスクを常用しました。バスは、参加者は予め決めた窓際の席に座り隣の席は空席としました。スタッフは補助席でした。食事の際は、テーブルは向かい合うことの無いように設定し、予め席を班毎に決めました。

*活動について

6月22日10時から応募受付を始めたのですが、早かったイベントは2・3分で定員越えとなりました。応募の多さにびっくりでした。

新型コロナの感染拡大があり、応募者が少ないかなと考えていたのですが、どうやら子供達（保護者も含め）はイベントに飢えていたようです。

活動その①

令和3年8月4日 JMU津造船所見学と 鳥羽商船高専の練習船に乗って体験航海

三重県の小学5・6年生と中学生合計45名の参加を得て実施しました。

恒例の活動で人気のイベントです。令和元年度の活動では合計で149名の参加がありましたが、今年度は新型コロナ感染防止対策として削減しています。

母校の練習船に乗って伊勢湾を体験航海しながら船橋で操船体験とか機関制御室でエンジンに関する話を聞いたりとか、ロープの結び方の体験などをしました。

船内では4班に分かれての活動でした。

新型コロナの感染防止対策として、マスクの常用、アルコールで手指の都度消毒、移動時に各班が接触することないようにコース設定など、対策を取った活動となりました。



活動その②

令和3年8月19日 伊勢湾フェリーに乗船し、 伊良湖で渥美半島の自然観察をする

多くの応募を頂き、約40名の小中学生が参加予定でしたが、8月6日に三重県から新型コロナに関して「緊急警戒宣言」が出され、県外への移動自粛を求められましたので、残念でしたが活動を中止しました。

三重県では緊急警戒宣言が発出されてから、新型コロナの感染者は急拡大し連日記録更新しており、ピークすら見えません。

このような状況ですが、(8月18日時点)今年度の今後の活動としては以下を計画しており、新型コロナの状況を見ながら、出来れば実施したいと考えています。

その③

令和3年10月9日 潮騒の神島にわたり、 伊良湖水道の見学と神島の自然観察をする

募集済で、小中学生約50名が参加予定です。

鳥羽市営の連絡船(チャーター便)で神島にわたり、神島を徒歩で一周します。途中で神島灯台や伊良湖水道を見て、渡りをするアサギマダラを探します。

その④

令和3年12月11日 もうすぐクリスマス、 遊んで学ぼう 商船学校の歴史と船と海の話

まだ募集はしていません。小中学生30名程度の参加を計画しています。

故郷の海を愛する会の団体情報は以下からご覧いただけます。

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1882169442>

又、活動報告等は以下からご覧いただけます。

<http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/>

◇終りに

昨年度は活動を新型コロナ感染拡大防止の為、中止しているの、何とか今年は再開したいと考えていました。

新型コロナの感染防止対策を取って、活動その①を実施しましたが、活動後、三重県での感染者が増加しており、この活動で感染したのではと心配でした。2週間経過した現時点でそのような情報はありませんが…。

新型コロナの収束が待たれますが、どうなるのでしょうか。

新型コロナの感染防止対策としてワクチン接種済のスタッフで活動するという事は、幸か不幸か多くのスタッフが高齢者ということ。

子供たちの人気、海事関係者からの期待などもあり、この活動は継続したいと考えていますが、高齢化が改善されません。

俺がやってやる!!というような人はいませんか??

支部だより

東日本支部 支部長 福山 道夫 (S41N) 総会・懇親会 (2021年度) 開催予定の お知らせ

相も変わらずコロナ禍が続いております。会員の皆様におかれましてはお元気でお過ごしのことと存じます。

東日本支部ではご多分に漏れず、今年1年年初よりさしたる活動もなく様子見に徹しておりました。

ようやく6月より我々65歳以上のワクチン接種が始まり、7月いっぱい5、6割程度が2回目接種終了の運びとなりました。

また、この時点の政府の発表では11月までには国民全員にワクチン接種が行き渡るとのことでした。

当情報に基づき、また同窓会本部より当初の会報発送が9月末であるところから、この時期に合わせ支部総会の案内状送付を行い、総会・懇親会の開催を12月3日(金)に予定する旨を6月20日付けにて全理事に第1報として周知しました。

しかしながら、8月現在コロナ新規感染者の増加は留まることを知らず、また本部の予定も変更となり、会報発送は10月末となりました。よって12月3日の開催はなくなりました。

この時期10月末に案内状発送を合わせるには、総会・懇親会開催は2か月後として1月初旬になります。(開催日は今のところ未定)

コロナ禍が終息するにはまだまだ時間がかかり判然としませんが、当支部としては推移を見守っていくしかありません。開催できる日を理事全員の意見を聞きながら決めますのでしばらくお待ちください。

中部支部 支部長 山口 淳 (S61N)

令和3年6月より支部長を引き継いだ、S61Nの山口です。現在名古屋港で五洋海運に勤務しております。卒業後一旦は外航船への乗船が叶うも夢破れ、陸に上がる際に現在の勤務先を紹介していただいたのは同窓会でした。その恩返しの為できる限り同窓会の活動には参加して参りました。そしてこの度支部長の任を受け、恩返しの集大成とするためにも、重責を全うすべく頑張っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年度活動報告

昨年より続くこの長く忌まわしいコロナ禍のせいで、例年恒例としていた、名古屋港入港の鳥羽丸や海技教育機構の練習船への飲料差入れを取りやめ、四日市カッターレースは開催中止となり、支部役員会・総会も開催を断念いたしました。しかしながら時期に恵まれ、第2波と第3波の間の令和2年11月7日に唯一ゴルフコンペを開催することが出来ました。12名が参加し、優勝 中根靖 (S56N)、第2位 町裕次 (S52N)、第3位 山口淳 (S61N) でした。

今年度も支部総会は書面開催で、5月に予定していたゴルフコンペも中止となりました。このままいけば昨年度と同様に何も出来ず終わってしまいそうで、次の同窓会報にも同じような文章を掲載すると思うとうんざりします。相次いで発出されている非常事態宣言・まん延防止等重点措置の規制により、様々な影響を受け大変なご苦勞をされている会員の方々がたくさんおられると存じます。一日でも早くこのコロナ禍が終息することを願うとともに、会員各位のご健勝を祈念いたします。

四日市支部 支部長 待井 健司 (H2N)

同窓会会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、西井育央前支部長 (S61E卒) の後を受け、四日市支部長を拝命しました待井健司 (H2N卒) と申します。

歴代支部長が築かれた歴史と成果を考えますと、責務の重さに身の引き締まる思いがいたしますが、四日市支部の同窓会活動活性化に向けて精一杯取り組んで参りますので、どうかご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、今年度の支部役員会及び支部総会については、いまだ新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立っていない状況を鑑み、皆様の安全を第一に考慮しました結果、中止させていただくことといたしました。(書面決議により決定)

この日を楽しみにされていた皆様には、大変心苦しく残念な気持ちでいっぱいです。

また、毎年、四日市港において開催される「四日市港まつり」の「カッターレース大会」については、



母校からの現役生徒が「鳥羽丸」で来港いただき、我々OBとともに運営スタッフとして参加いただいておりますが、これについても新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、残念ながら開催は中止となりました。

一方で、7月11日(日)に四日市港千歳運河で、「カッター体験会」が実施されました。

これは、今年度開催が予定されております「三重とこわか国体・大会」のデモンストレーションスポーツとして実施されたもので、カッターの未経験者を対象に、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、カッターの魅力に触れていただきました。

当日は、西井前支部長をはじめとするOBによる運営のもと、カッター初体験の19名の方々に参加をいただき、天候が心配される中での開催となりましたが、開催時間中は波も穏やかで絶好のカッター日和となり、カッターを思う存分楽しんでいただきました。

今はコロナ禍のなか、同窓会活動も思うようにできませんが、コロナ禍が一刻も早く終息し、従来のような活動を再開して、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

最後に、会員の皆様のご活躍を祈念して、四日市支部の活動報告とさせていただきます。

伊勢志摩支部 支部長 三井 健次 (S43E)

この一年は、自粛、我慢、延期、中止、蔓延、猛威、……会報が発行される秋には、解除。終息、普段の生活、の聲が聞こえることを願ってやみません。

さて、4月1日伊勢志摩支部理事会を開催し、昨年度の活動報告と今年度の活動計画を策定した。

令和2年度伊勢志摩支部活動の報告

- 1、同窓会定期総会はコロナ禍により中止
- 2、商船学科卒業式(2020/09/29)及び工学科卒業式(2021/03/14)は新型コロナウイルス感染対策の為大幅に縮小し挙行された。伊勢志摩支部からの出席は無かった。
- 3、NPO法人故郷の海を愛する会へ、前年度の赤字補填として助成金¥50,000を支給。
- 4、NPO法人故郷の海を愛する会と協力し、「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」を推進。
フジバカマ苗木をプランター10個で育成し、記念館玄関左側に設置し紹介した。数頭が飛来

した。

会員が育成した畑に延べ64頭のアサギマダラが飛来した。賛同者から苗木株分けの依頼があった。

5、同期会開催奨励金制度利用は、コロナ禍の影響により皆無であった。

6、伊勢志摩支部懇親会開催 コロナ禍により中止

令和3年度の活動計画

- 1、同窓会定期総会(コロナ禍により中止決定)
- 2、創立140周年記念事業への協力。
- 3、卒業式出席 卒業生同窓会会費納入促進プレゼンを行う。(2回)(コロナが終息すれば)
- 4、NPO法人故郷の海を愛する会への協力。今年度末に同会が赤字となった場合多少の助成金支給に応じる。
- 5、校祖近藤真琴翁の業績を地域の人に知ってもらう活動の一環として。目的を同じとする団体と協力し積極的に進めていく。「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」フジバカマを10個のプランターに株分け育成し、記念館前に設置する。「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」を進める為¥20,000を予算計上する。
- 6、同期会開催奨励金制度は継続する。
年間5組総額¥10,0000の予定
- 7、海学祭への寄付と模擬店出店協力
- 8、伊勢志摩支部懇親会開催(コロナ禍が終息すれば)

140周年記念事業ではすでに、皇太子殿下行啓記念碑の除幕式、近藤真琴翁紹介パネル完成しました。間もなく待望の船歌集DVD・CDも完成します。私は同期の墓前で思い出の船歌を聴くつもりです。

関西支部 支部長 習田 誠至 (S55N)

令和2年度 関西支部活動報告

1. 支部総会・懇親会

例年、12月に開催していた支部総会・懇親会は、新型コロナウイルス感染症の拡散のため、開催できておりません。コロナ終息及び大阪府、兵庫県の自粛要請をみながら、開催を検討したいと考えております。

開催の場合、あらためてご案内いたします。その時を楽しみに、できる限りのご参加をお待ちします。

2. 支部活動

現状、特に同窓会活動ができておりませんが、自

肅要請が緩和されましたら、幹事会を開催し、何が
できるかを検討いたします。

3. その他

皆様、このご時世ですが健康には十分に注意いた
だき、どうかご自愛くださいませ。

西日本支部 支部長 中野 正義 (S41N)

至って広域ではありながら、支部会員数が小規模
なのが当支部の特徴ではありますが、本年度の活動
実績と次年度の活動計画を次の通り報告致します。

【実績】

- *令和2年1月18日
支部新年会（福岡天神・花万葉／7名）
- *令和2年4月
長崎帆船祭り<＝コロナ禍で中止
- *令和2年6月
同窓会本部理事会・総会<＝MAIL他にて対応
- *令和2年3月～／6月～7月～
支部総会<＝コロナ禍にて延期のあと中止
- *令和3年1月～
支部新年会<＝コロナ禍にて中止
- *令和3年3月21日
臨時支部長会議（名古屋：日本会議室）
- *令和3年4月3日
支部理事会
- *令和3年6月5日
慰霊碑除幕式出席（母校）

【計画】

極めて長期にわたるコロナ禍も“ラムダ”なる変
異株まで出現し、当支部に於いても遺憾ながら、あ
らゆる行事の計画が立てられない状況になっていま
す。例年6月～7月に開催していた支部総会も昨年
に続き中止となりました。我々事務局は勿論ですが、
毎年参加頂いている諸先輩・皆様方々も、霧笛が聞
こえる“下関海峡ビューホテル”での支部総会・懇
親会を待ち望んでおられることと想います。現在の
状況から好転することを願いながら、可能な限り、
本年度内での開催を目標としたいと考えておりま
す。その節は、案内状を出しますので、

多くの方々が参加されることを切に希望致します。



特集

「我等! 鳥羽商船」

オリンピックボランティア活動に参加して

長谷川 真佐雄

昭和44年 機関科卒

コロナ禍の非常事態宣言下においてオリンピック
は開催された。

あちこち出歩き、人的交流を広めるのが好きな私
は、オリンピックボランティアとして応募し、採用
された。私の配置場所は伊豆ペロドロームとその敷
地内にあるMTBコースの2箇所となった。自転車
競技場である。

競技が始まる3日前の7月23日から研修を兼ねて
活動が始まった。三重県から通うには遠すぎるので、
沿線の小さな旅館に泊まり、そこから通うことに
した。

毎朝、修善寺駅からシャトルバスで競技場入口ま
で25分、バスを降りてから活動場所まで徒歩で行く
が結構距離があり、その間に体温検査、歩行者検査
（手荷物検査）、チェックインと続く。チェックイン
にてその日の昼食券と飲料水、アルコール消毒ボト
ル、固形食塩、クーリングボディシート、チョコレ
ート、その他グッズを受け取り、やっと活動場所
に向かうのである。その他に交通費として毎日1,000
円が支給された。



朝9時過ぎから活動が始まった。私が配置された
部署はVenue Media Center (VMC) 内のプレス
オペレーション部。ここでは世界各国からやって来
る報道関係者のために基本的なサービスとしてイン
ターネット接続、機材ロッカーの貸し出し、競技資

料の提供、ラウンジサービス、遺失物管理、タクシーの手配、競技場内の案内、記者会見室の整理、PCR検査受付等を行う。

ここでのボランティアは15人ほどで男性は3人のみ。私が一番の年配者で後は20代から50代といったところか。またボランティアはここでは“フィールドキャスト”と呼ばれた。まずは指導してくれるリーダー、スタッフ等の紹介から始まり、その後それぞれのチームに編成され、私は“Help Desk”という場所に配置された。そこでの仕事はここVMC内で、3～4人のボランティアで先述した作業の殆どを担当することになり、英語力が必須となる。もちろんスタッフがいて、解らなければ聞けばよいが、スタッフも自分たちの仕事を持っている。

競技開始初日(26日)は予想通り右往左往、てんでこ舞いの連続。

解らないところは休憩時間を利用して自分の足で歩いて場所の確認をしたり、マニュアルを再読したり、またボランティア仲間で確認し合ったりして頭に叩き込んだ。

HELP DESKには最低2人以上の要員が必要で、VMC内には20人ほどの報道関係者が常駐しており、問い合わせ、資料請求、苦情等に対応し、感謝されたり、或いはこちらから注意もした。ある時、ある外国の報道関係者がVMC内のフードショップ前で店員のおばさんに大声で怒鳴っているのが聞こえた。ちょうど私がいる場所からそれが見えたので、そこへ行き店のおばさんから事情を聞いた。購入した食べ物が充分暖まっていないのが不満であったらしい。食品を暖めるウォーマーは電子レンジではなく、小さな陳列棚に設置してあるヒーターで暖めているので無理もない。話し合った結果、返金することで収まった。

活動も慣れてくると、やっと笑顔で対応できる余裕が出てきて、“何でも来い”という気になった。デスクからはメディアの人達が鳥瞰的に見渡せ、いろいろな人がいることが解る。

基本的には彼らは礼儀正しい。しかしホットドッグや弁当を頬張りながら、キーボードを叩き、夜遅くまで写真や情報を本国に送信している人達も多く、ボロボロと食べ物を机や床に落としても平気な人もいた。それらを後で掃除するのもフィールドキャストの役目なのだ。

一つだけ、許せないことがあった。修善寺駅までのタクシーを予約にきたあるフォトグラファーが予

約の時間だけ言って直ぐに立ち去ったのだ。夜遅かったので、どのタクシー会社も嫌がり、1時間掛かってやっと引き受けてくれるタクシーを見つけ、予約者の名前等の詳細を聞こうとしたら、本人がいない。そして約束の時間になっても客が現れないとタクシーの運転手からも電話が入った。その直後、本人が我々のデスクに現れた。私の怒りはもう…推して知るべし。思い切り言うべきことを言ったら、相手が素直に詫びたので、気持ちが収まった。タクシー乗り場まで遠く、山中の夜道は迷う。私が乗り場までいっしょに付いて行ってあげた。

ここでのボランティア活動は、途中3日間ほどのブランクを除けば12日間続いた。コロナ禍での開催のため規制が非常に多く、そのため競技場内並びに周辺にはたくさんの警察官、警備員、保安員、見張り職員、ボランティア等が配置されており、数十メートル歩けば必ずと言っていいほど誰かに出会う。殆どの日、私は午後12時から21時過ぎまで活動し、帰る頃、外は真っ暗。シャトルバス乗り場まで暗くて遠い道を歩かねばならなかった。



8月8日、オリンピック最後の日。この日は朝10時から女子の自転車レースが行われ、私は臨時で競技場内の監視役として配置された。観客は定員の50%以下となっており、1,000人も入っているかどうか。レース中、私の目の前で壮烈な自転車のクラッシュが発生した。自転車同士が接触することで、次々と転倒し、大きなクラッシュとなった。怪我人が1名担架で運ばれる事故だった。レース中の自転車のスピードは時速70kmほど出ているという。

試合後のインタビューはミックスゾーンという場所で実施されるが、ここでも厳しいフィジカルディスタンス(選手とメディアは2m以上、メディア同士も1m以上)を確保する必要がある。ここで活動するフィールドキャストは間近に有名選手に出会えるチャンスがあった。

終了後、再びVMCに戻り、最後の活動に参加した。15時頃、後片付けもほぼ終了し、スタッフ、ボランティア仲間ともお別れとなった。今まで共に無我夢中で取り組んできたので、名残惜しく感じるのも無理はない。只、たった12日間の間にも人間の業として、いろいろなものが露呈した。仲間同士やリーダーに対する妬み、批判、反感等…。

でもこれらを乗り越えてきたからこそ、絆が強くなったような気がする。

今後レ・ユニオンを計画しようということで解散した。帰りのシャトルバスから見た競技場は今までとは違って、再訪を促すような光をいつまでも放っていた。



客船にっぽん丸 世界青年の船 2019年
一等機関士と共に、左が私です。

一同窓生の思い出とその後の人生

中村 映

昭和50年 機関科卒

コロナ感染症のパンデミックでこれまでの延長線上の社会生活も一変しています。

コロナ禍、グローバル化による社会がさらにIT技術、AI技術の発展に拍車をかけこれまでとは違ったスピード感で我々年配者には予想もつかないような方向に向かっていくように思います。

我が母校鳥羽商船も社会の環境に合わせて企業が生き残る為の変革が必要のように、社会に立ていける商船系工学系の鳥羽商船であり続けてほしいと望んでいます。



温故知新という言葉がありますが、長い歴史の中で培われた伝統を、残すものはしっかり残して古い殻は脱ぎ捨て、先を見据えて変化する社会に胸を張って飛び出していける学生が学んでいる鳥羽商船であると期待しています。

校長主導での学校運営又同窓会も会長主導で努力されていて素晴らしい成果も出しています。名は商船学校ですが中身は特徴を生かした強みのある商船工学系に特化した存在感のある学校になってほしいですね。

私は、機関学科を昭和50年（90期、高専4期）に卒業して13年間の船乗り生活を経てその後、当時の言葉なら脱サラして、偶然にも仲間4人で今の会社（ビル管理に分類、25期目）を夢見つつ苦難も共にして立ち上げました。

失敗も重ねてきましたが、何とか売上高70数億、社員300数十名までの規模に成長することが出来ました。

社会経済によって企業も変わっていくようにそこで働く人もキャリアアップし、起業、等多様な価値観や変化に対応して仕事に就く時代になってくると思います。

私達の商船学校時代の伝統!?で受け継がれて過ぎてきた全寮制生活の思い出は、それぞれが一冊の本にはなりません（笑）。同窓会で語りあえば一晩でも体力が持つまでエンドレスです。

振り返ればエネルギーも有り余っている多感な青春時代を鳥羽という地で4年半寝食共にした仲間、皆人生の貴重な時間を過ごした学校だったので。

遠い故郷を離れ右も左も分からない1年生は5分前の精神で鍛えられ？言われるままに本当によく走りまわる作業員でした。授業の休憩時間に窓から故郷の観光バスが通るのを見て思いをはせる16歳の少年が何人もいました。

ラーメン作りもよくしました！池上団地への使い走り！池上墓地への肝試し！ボンクでの按摩！（我ら柔道部は最適要員で？寝てしまう上級生に手をやきました）

柔道ではS先生（8段）に左右の出す足を間違ひ、良く頭を叩かれていました。恒例の風呂掃除、相撲大会、学生規心、船乗りのモットーは脳裏に刻まれています（痴ほう症になっても出てきますよ）新任当直教官のストーム歓迎！（消灯時一斉にバケツ乱打等で大音響）焼きめし坂をストーリーキングして走

ったのは何もなくてよかった。

1年生は奴隷、2年生は人間、3年生は神様、という言葉がまだ聞かれた時代背景だったのです。

良しにつけ悪しきにつけ他では経験できない学校生活だったのです。



楽しかったカッター巡航の思い出

自分の欠点や長所は自分ではわからないものですが、鳥羽商船伝統のDNAは社会人になってからもそれぞれ発揮されているのでしょう。

同窓生の心の繋がりは「鳥羽の地で過ごした」私はそれだけで充分です。

当時の教官の一言はなぜか心に残っています。

○教官の一言「君らのやっている事は主義主張がない」内心こたえました。

S教官の一言「一般教科も大切なのですよ」社会人になってから意味が良くわかりました。

H教官の一言「ノープレス・オブリージュ」授業覚えていませんが！（地位のある人の社会的責任と義務）

起業の思い出、1995年縁あって仲間4人でビルメンテナンス会社シーレックス(株)を設立するに至りました。ビルメンテナンスの会社といえば清掃会社のイメージですが、我々は元々船のエンジニアが3名で（建物を外航船と見立て）培った技術を生かしたメンテナンスを顧客に強くアピールしたオンリーワンの会社を目指しました。後に各メーカーさんとのこれまでに例が無い契約という難しい交渉にもなりました。オーナーの理解もあって、初めて5万㎡のコンベンション型のホテルを総合管理で受託したときの提案書は設備管理員にはマルチパーパスクルー（船会社時代に合理化船でデュアルパーパスクルーを経験）と名称をつけ。

1. 日常は設備員で業務をして、コンベンション等がある時は警備員として車の誘導、整理を行う。
2. コジェネレーション（発電機）のオーバーホー

ル等はメーカーでなくすべて自社で対応。

3. これまでの業界での常識であった業者発注を出来る限り自営対応としました。
4. リスクもあるが全体の管理経費が低減され発注者にも還元でき、当社も付加価値の高い仕事ができ生産性も改善できます。

受託物件は事務所ビル、商業施設、ホテル等とありますが顧客に如何に良い管理、提案を提供出来るかというサービス業です。企業も社名からは想像できないような新たなビジネスモデルを企画、転換もしていています。

長い歴史のある同窓会も時代の流れか？活動も進め難いように思いますが、これは鳥羽商船だけではないと思います。学校と両輪となる同窓会の目的、意義、在り方を一度原点に戻って次世代の人達とも議論していく時間も必要なのではないでしょうか。

商船健児、人間到处有青山

青木 郁夫

昭和52年 航海科卒

暁寮で同室だった西山先輩から電話があり、同窓会報寄稿のお話を頂きました。「他に相応しい御仁が…」とは思ったものの、同窓会会長は陸上部の菅沼大先輩、そして西山先輩からの依頼（命令？）とあらば、当時の1年生だった私にNoはありません。故に今回、私事で紙面を汚す事ご容赦下さい。

練習船を下りた就職難の昭和52年、オオカミこと山門先生の計らいで「鳥羽から1名採用」との連絡をくれたS商船に、私は推薦の形で入社しました。ところがこの会社も長引く海運不況には勝てず、C/Oになっていた十数年後には敢無く「陸の河童」になるはめに…でも、これが本当のビジネスキャリアの始まりです。



「陸の河童」になった以上、海事関連への未練を断ち切り異業種で己が「商船健児」の力を試そうと、最初に挑戦したのが求人雑誌で見つけた医療機器専門商社の営業職。「30歳以下、営業経験有、大卒」という応募条件を悉く満たしていなかったものの「会うだけでも」と強引に頼み込み、幸いにもその会社の営業本部長と米国輸出元メーカー副社長による最終面接にこぎつける事が出来ました。

ところが面接では、米国側副社長（もちろん米国人）は即戦力を採用するべきだと門外漢の私を評価せず「君はこの仕事に向かない」という事実上の落選宣告。しかし日本側の営業本部長から「船乗りでこの仕事にチャレンジする気概が良い」と援護射撃をして頂き、結局滑り込みで採用されたのが異業種人生のスタートです。もちろん最初は苦労しましたが、「元船乗り」の肩書は客先の覚えもめでたく、更に「スマートで目先が効いて几帳面、負けじ魂」の「船乗りのMotto」が、陸でも（陸でこそ）精神の規範として何回もくじけそうになった自分を助けてくれました。

ここで余談です。

入社数年後、米国側副社長は来日する度に私の事を「O Captain! My Captain!」とホイットマンの様に呼んでくれるようになっていたのですが、その彼に「あんな返答をした君が…」と言われた事があります。それは入社面接中に彼から「How would you like to be, 3 years later? (この会社で3年後どうなっていたい?)」と聞かれた際の事で、私が「I can't imagine it as I have no experience on the sales job (営業経験が無いので想像出来ない)」と答えた所、彼は私を「想像力の無い頭の悪い奴」と思ったそうです。また別の質問で「How much do you want to be paid? (幾ら給料が欲しいのか)」という質問にも「At first, I don't mind just enough to live on, because I haven't contributed anything to you yet. (未だ何の貢献もしていないので、最初は食べるだけでいい)」という返答が「自分の価値も言えないのにこの仕事をしたいなんて、成功するはずが無い」と思わせたそうです。外国人の面接に謙譲の美德は通じません。でも、彼からは「自分の将来を出来る限り具体的に想像することは、自分の理想に近づく羅針盤となる」と学びました。その後、入社希望者に対し面接する側になった私は必ずこの質問をしています。

閑話休題（おわり）

幸いにもこの会社では6年で営業部長に昇格しましたが、私を採用してくれた本部長がその年に競合会社でもある外資大手のジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）に転職され、更に「君もJ&Jに来ないか」というお誘いを受ける事になりました。勤務先から「競合会社に移籍すれば訴える」という警告もあったのですが、尊敬する方のお誘い（命令?）となれば、私にNoはありません。

J&Jでは各事業部や管理部門の仕事だけでなく米国本社勤務も経験しましたが、その仲間は超一流大学卒のMBAホルダーばかり。かなりのプレッシャーがありましたし、結果を出せなければ「船乗り上がりだから」と言われるのは必至です。ここでも「船乗りのMotto」に助けられました。

その後、J&Jは55歳で早期定年を選択しドイツの医療機器メーカーに移籍。そこでは取締役副社長として経営を学び、更に58歳で世界最先端の外科手術ロボット「ダヴィンチ」のメーカーであるIntuitive Surgical日本支社にSales Vice Presidentとして転職。定年後の現在も、この会社の契約社員として、代理店管理とコンプライアンスの担当Directorをしています。

船長になって七つの海に雄飛し最後には水先人になる、という夢は叶いませんでしたが、振り返れば「これで良かった」と思いますし、「鳥羽商船卒」という肩書には何回も助けられました。もちろん、それは先輩方が築き上げられた歴史と伝統によるものですが、私もこの業界でそれを汚す事は無かった、と自負しています。

最後に後輩諸君に先輩風を吹かせます。皆さんの未来は誰にも予想できません。自分の判断で、自分で出来る最善を尽くし、後悔の無いよう一度きりの人生を送って下さい。「鳥羽商船卒」の肩書は決して邪魔になりません。そして、皆さんがその価値をますます高めて頂けるものと信じています。人間到处有青山。UW。



鳥羽で見つけたもの。そして…

黒須 武

昭和55年 機関科卒

昭和50年4月10日。親元を離れ、鳥羽商船高等専門学校へ入学した日である。

自身も将来への希望に胸を膨らませ、校門をくぐったのが思い出される。約半世紀弱経過した今日この頃は、新型コロナウイルスによるパンデミックですっきりしない日々が続いている。

それまでは、毎年のように第2の故郷でもある鳥羽を訪れていたが、行動の制約を課せられ、行き来できず残念である。コロナ禍前に還暦が過ぎ、卒業から長い年月を経過した今でも、度々決まった夢をみる。

夢は、「試験が及第点に届かず、窮地に追い込まれる自分」。しかも、決まった教科である。

これ以外の夢では、夢だから楽しんでいるのだが、その夢の場合は楽しむ余裕もない。目を覚ますと胸はドキドキ、汗もかいている。そして、「あー、夢だったんだ」と一安心するパターンである。

この夢を見るのは疲れていたり、深酒をしたからということではない。もしかしたら、トラウマなのか？

最近、大手新聞に「AIと衛星を組み合わせた新しい船舶監視システム」が構築されようとしている記事を見かけた。デジタル化の波があらゆる分野に及んでいると感じるとともに、在学中に施設としてあった電算機:HITAC8250を思い出した。今でこそあらゆるところにコンピューターの類の機器は多くみられるが、当時は僅少で「情報」という言葉さえ頻繁に聞くことはなかった時代だった。

そのHITAC8250を使って学んだ情報処理は、卒業後の進路だけではなく、生き方に多大な変化をもたらしてくれた。

就職は富士通系ソフトウェア会社に身を委ね、在学中に学んだ技術系言語でない事務系言語をベース



とするシステム開発・運用に従事することになった。

今般は働き方改革が進み、過度な残業は制限されているが、入社から約20年程はかなりのオーバーワークだった。それを乗り越えていけたのは、「商船学校で鍛えられた体」と「学生規心が染み込まれた精神」のたまものであろう。



東京 通勤途中にある「虎ノ門ヒルズ」

多分、同窓の皆さんもそうであるように、早く覚えなくてはならなかった学生規心。あの頃の集中力を復活させたいと思うのは私だけなのか…。

時代の変遷で姿がなくなることは世の常である。しかし、多感な時期を過ごしたものとなると喪失感強い。高学年寮だった白菊寮が取り壊された跡地を目の前にした時は、力弱いため息がでた。

春には寮前の岸辺で取った貝を食べたり、後期中間試験期間中の日曜日には国道を走る実業団駅伝ランナーを応援、夜中には屋台の「まーちゃんラーメン」をすすったことなど。

これらの思い出は胸に「白菊寮」として残っている。



白菊寮 2016年 6月14日撮影

本校舎は入学当時の姿をとどめている。授業で教官が「将来、君らが妻として迎える人は、鳥羽の女性であろう」と話されたこと、はっきりと覚えている。そんなことあるわけが無いと聞き流していたと思う。だが、人生とは面白く不思議なもので、この文章を書いている最中のTea Timeには、テーブル

の向かい側に鳥羽出身の妻がいる。

商船学校に入らなければ、このようなことはなかったであろう。個性ある先輩・後輩、生涯の友人となる同級生、青臭く生意気な自分を暖かく接してくれた鳥羽の人たち。自分の体幹を作っていたようなものである。その中を際立たせてくれているのは、やはり妻である。

鳥羽とは遠く離れた内陸の県に住まいを構えていても、鳥羽の潮のかおりを感じるのには妻のおかげだ。

いまでも鳥羽商船学生気分を失わずにいられる。

鳥羽商船でいただいた恩恵。全てを書ききれない、感謝してもしきれない程である。

今までは享受ばかりだった。これから先、微力であろうとも多くに尽くしていきたい。

「メロディー」、「リズム」、「ハーモニー」と音を楽しめるように。

PS.鳥羽市では真珠婚のイベントがある。自分は対象を過ぎてしまったが、「金婚式を鳥羽」で挙げられたらと思ってる。

一に体力、二に胆力

徳永 太蔵

昭和63年 航海科卒
伊勢三河湾パイロット

N103期卒、徳永と申します。ご縁があって、伊勢三河湾水先区にお世話になり3年目を迎えました。

当水先区は、場所柄か鳥羽の先輩が多く在籍されており、事務所の雰囲気は鳥羽に例えると、

3年になり暁から白菊へ移って、突然周りが上級生ばかりなので、とにかく大きな声で挨拶。

急にまた学校に戻ってきた感覚があります。

先日、待機所での潮待ち時間に、何気なく出身クラブの話になり、柔道、剣道、ラグビー等格闘技系が意外に多い事が分かりました。私自身も援団とラグビーそして柔道部出身です。

ただの偶然かもしれませんが、この仕事には格闘技と結びつく何らかの要素があるのでしょうか？

皆さんは、パイロットにどのようなイメージを持たれているのでしょうか？



この仕事、意外にも体力勝負なのです。トランシーバー、ライフジャケット等、嚮導に必要な道具を詰め込んだ10kgを超えるディバッグを背負い、入港立ち上がりの伊良湖で乗船、名古屋下船の往復をこなすと大体1万歩超えです。このような業務を70歳を超える大先輩も同様にこなしている、なんとも凄いことです。

加えて、風も何もない天気の良い日ばかりではありません。風が強くと砂降りの日、台風が近づいている等、時化た時は、揺れでひっくり返りそうなパイロットボートの中で、ぶっ飛ばされないように足を踏ん張って両手はひじ掛けにしがみつき、耐えながら40分航行し本船へ。全集中の呼吸で、バックを背負ってパイロットラダーに飛び移り、これ以上ない力を振り絞って上へ上へ…。登りついた甲板上からは、エレベーターのない船や、酷い時などは、「コロナだから」と、外階段を歩いて昇って4～5階上の船橋へやっとの思いで辿り着く。しかしほっとは出来ません。業務開始はここからです。

「アカン！とにかく体力勝負や！」と思い、毎朝5kmのランニングの後、バーベル、腹筋、腕立て等、1時間のウエイトトレーニング、その後たっぷり1時間の入浴を日課とし3年目に突入。今はとても身体が軽く、柔道だろうがラグビーだろうがいつでも試合に出れそうな、そんな体調をキープしています。

また、当然ながら健康にも気を配らなければなりません。昨年までは年2回の人間ドックが有り、これに引っかけると症状にもよりますが船に乗れません。



私はこの仕事に就いてから血圧が高めで、ちょこちょこ引っかかっていたのですが、同じような状況の若手先輩は、『平常心』を作る為、弓道を始めたそうです。なるほど、体質改善の為、運動や食事制限は行っていますが、もっと積極的に精神から鍛えて気持ちをコントロールするという考え方には目か

ら鱗の思いでした。さすが先輩。ならば私は、道場も近いので柔道をもう一度と考えたところで、ふと気が付きました。

強靱な肉体と強いハート、2つの要素を獲得するには格闘技系が最も効率が良いのです。『また、お前は極端なことを』と先輩に注意を受けそうですが、「一に体力、二に胆力」をモットーに、日々業務に取り組んでいます。



学生時代を振り返り 思うこと

杉谷 秀樹

平成2年 電子機械工学科卒



就職して、「学生時代にもっと勉強しておけばよかった!」と思ったのが、40歳近くになって国家資格試験取得の必要に迫られた時です。私の仕事は、工場などの建設に始まり、生産ラインの構築立ち上げを行い、稼働中はその維持管理を実施し生産が終わればそれを撤去し、また新しいものを構築することです。工場の維持管理においては、難関の国家資格である電気主任技術者やエネルギー管理士、公害防止管理者、建築物環境衛生管理技術者などの資格取得者を配置する必要があります。

卒業したての柔らかい頭を持っていた頃は、いつかは資格を取らなくてはと思いつつも会社に就職し新しいことを覚える楽しさや、寮生活から解放され一人暮らし(会社でも寮生活でしたが、商船の寮生活との違いは諸先輩に説明は不要と思いますので割愛します)からくる楽しさなどで、それほど真摯に取り組めませんでした。会社で若手と呼ばれる頃は、参加することに意義があるとそれでよかったのですが、中堅以上になってくると、それらの資格を持っていることがキャリアの条件ともなります。ここで

冒頭の学生時代にもっと勉強しておけばとの振り返りになります。

学生時代に教えて頂いた、数学や電力理論、熱力学、振動工学を思い出しながら、三角関数、連立方程式、微分積分を駆使しながら試験問題に取り組み、そういえば学生時代は15V以上の電圧は将来取り扱わないので、強電の勉強は不要だとサボっていたことを懐かしく思い出しました。将来どのように回り巡ってくるか身につまされ、学生時代に選り好みせず基礎は学んでおくべきだと、その当時の自身に向かって忠告したいものです。

仕事の話はここまでで少し現況報告をさせていただきます。わが愛しき奥さんに誘われ、旧東海道歩きなるものを4年ほど前から始めました。



最初は東京日本橋を起点に東京見物しながら品川まで散策。次は品川～川崎、川崎～戸塚…と暑くない季節の週末を選び、少しずつ歩いています。

途中、足の裏に豆が出来たり、ランチ難民に陥ったり、道が分からなくなって夫婦喧嘩になったりのアクシデントも。しかし、友人と合流して歩くこと、道中すれ違う人や地域の人、旅する外国人と楽しい会話を交わすこと、四季の移ろいを感じることに、自然の雄大さに触れること等感動も沢山です。更に、訪れた土地の名物や美味しいものに巡り合うことも楽しみの一つで、今では「旧東海道食べ歩き」になっているような気がします。

1日に15～20キロを歩きます。車や電車であつという間に通り過ぎる道をのんびりゆったりと歩くのも良いものです。学生時代には想像できなかった人生の楽しみ方です。

現在、三重県の関宿で小休止中ですが、京都三条まではあとわずか。到着が楽しみでもあり、少々名残惜しいような気がします。そして、この後はどの街道を歩こうかと思いを巡らせています。この未曽有の禍を無事克服できたあとは、皆様も近くの街道に足を延ばしてみたいでしょうか。



海学祭が楽しみです!

宮田 光貴

令和2年 制御情報工学科卒



私は2020年に制御情報工学科を卒業しました。学生時代の一番の思い出は海学祭です!海学祭の屋台行事には毎年積極的に参加していました。普段、接点がない人と話せるので卒業後の今でも楽しみな行事です。女装コンテストにも1回だけ出場しました笑。卒業後は第一工業製薬株式会社という化学系の企業に就職しました。第一工業製薬株式会社は界面活性剤や基板材料、工業用薬剤などの製品を中心に開発・製造・販売を行っている企業です。あまり聞き慣れない企業だと思いますが、トンネルの施工工事に使用される薬剤や、建物の壁に使用されている断熱材など、私たちの身の回りの様々な場所に使われています。最近では、健康食品などのライフサイエンス関連にも注力しています。私の仕事内容としては、主に工場の排水設備の保全や消防関連の対応等の業務を担当しています。周囲の人からはよく、「情報系の学科を卒業したのに化学系の企業に就職して、学んだことは活かしているのか」などと聞かれます。正直、私も入社前から工場勤務であると予想はついていたので、鳥羽商船で学んだことを活用出来るのかとても不安に感じていました。しかし、第一工業製薬ではDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しており、積極的に社内のデジタル化に取り組んでいます。そのため、新入社員全員は卒業した専門学科など関係なくDX研修と呼ばれる研修を受けます。DX研修では、DXに関する初歩的なことや鳥羽商船で学んだようなpython、php等といった様々な開発言語を学びます。そして、最後には研修の事後課題として、自分の身の回りの仕事で、業務改善できるシステムを1人1つ作成して、それを社内全体に発表するといったコンテストが開催されました。私の事後課題は他部署の方から営業部で使用できる製品売価を簡単に閲覧できるサイトを作ってほしいという要望を受けて、スマホ対応の自社向けウェブサイトを作成しました。事後課題の期限が3ヶ月ほどしかなく、間に合うかどうか、

かなり厳しい状況でしたが締め切りギリギリで、ほとんどのシステムが完成しました。学生時代もっと積極的に勉強していればこのようなことにはならなかったのでは…と後悔している日々です。

事後課題で作成したウェブサイトは現時点でもまだ本格運用されていませんが、もうすぐ営業部全体での本格運用が予定されています。導入後の費用対効果としては1千万円以上になります。

現在はこの事後課題が評価され、2年目からはDXを推進するプロジェクトに参加し、工場のシステム関連の業務改善業務等の仕事も担っています。今後も学生時代学んだことを活かして業務を改善できる様々なシステムを作成していき、私を必要としてくれているこの会社やその周囲の方々の力になればと思います。

鳥羽商船で学んでいなかったらこのような成果は残せなかったと思うので、本当に鳥羽商船を卒業してよかったと思っています!!

・最後に

私は情報系の学科の学生は情報系の企業に就職する方が良いという偏見を持っていましたが、今回化学系の企業に就職して、その考えは間違っているということに気づけました。

そういう考えを持っている学生は私のほかにもたくさんいると思います。情報系の企業以外にも大多数の企業が鳥羽商船の学生を必要としているということを多くの学生に知ってもらいたいです。そして、鳥羽商船の学生ということに自信を持って就職活動をしてもらいたいです!

新型コロナウイルス感染症が収まってきたら海学祭にお邪魔させていただこうと思います。

今後の海学祭も楽しみにしています!!今回はこのような機会を設けていただきありがとうございます。これからも宜しくお願いいたします。



世界中の船員にエールを!

鬼頭 和江

平成22年 商船学科航海コース卒

卒業して間もなく12年になります。鳥羽商船高等専門学校（以下、鳥羽商船もしくは学校）卒業後は物流会社に就職しました。最近まで新入社員の勢いで仕事をしてきましたが、いつのまにか若手どころか中堅といわれるポジションになり、四苦八苦しながら若手社員の育成をしています。



仕事で鳥羽商船を訪れる機会がありました。残念ながら卒業研究でお世話になった先生は退職されてご挨拶できませんでしたが、授業や実習で担当してくださった先生たちは変わらずいらっしゃいました。

私が在学中の商船高専の授業計画は、5年半の間に学校で一般教養と専門的な教育を受け、5年生の後期から海技教育機構（旧 航海訓練所）が実施する1年間の乗船実習がありました。今では授業計画が変更され、1年間の乗船実習を分割して行い、2年生、4年生でも乗船実習があり、合計で1年の乗船実習履歴をつけます。伝統的な海技の世界も徐々に変革しており、この変化に一抹の寂しさを感じますが、時代に合わせて変化を続けるところに感銘を受けます。



私が乗船実習を行う前年から世界的な不景気が続いた影響で、練習船の燃料代が高騰し、帆船でハワイに寄港し、残りの実習期間は日本の港を回りました。先輩方はハワイ以外にも海外の港に寄港されていたので残念な気持ちでしたが、昨今は乗船実習自体を控えていると伺いました。乗船実習でしか学べないこともありますので、乗船実習を行えるようにマスク装着の徹底といった制約はありながらも制度が整備されることを祈っています。また、毎年、夏には海技教育機構の練習船と、鳥羽丸が名古屋港に来て一般公開をしており、休暇と重なればご挨拶に伺わせていただくことが夏の楽しみとなっていますので再開されることを願っています。

縁あって就職した川崎汽船で、現在は陸上勤務をしています。乗船経験を積むと海上勤務と陸上勤務を交互に行われるようになります。私は二等航海士です。



パナマ運河通峡

今年は女性航海士が入社しまして、いつか一緒に船に乗れることを楽しみにしています。海上勤務には、コンテナ船では欧州航路でSea Pilotをピックアップして欧州のハンブルグ、ロッテルダム、アントワープ、フィリックストウ、サウザンプトンに寄港し、状況によりジブラルタル海峡やスエズ運河（ポートサイド）、喜望峰、シンガポールを經由して中国の上海、青島、基隆、高雄、香港、寧波、南沙に、アジア航路ではチェンナイ、バンコク、ラム・チャバン、ハイフォン、ポートケランなどに、豪州航路でブリスベン、シドニー、メルボルンに寄港しました。自動車船では北米航路で西岸ではロスアンゼルス、サンフランシスコ、ポートランド、ビクトリア、東岸ではパナマを經由してヒューストン、ジャクソンビル、サバナ、チャールストン、ウィルミントン、

ニューアークと名古屋(飛鳥)、四日市など日本の港、不定期航路ではスペイン、リボルノ、ギリシャ、アルジェ、ジェダ、アカバ、ブサン、広島など、LNG船では中東航路でカタール、フジャイラに、豪州航路も出来て西岸のダーウィンやゴーンから東京や千葉と、乗船実習では訪れることが出来なかった各国、港に入港してきました。陸上勤務中は東京で暮らしていますが、今年もコロナウイルス(正式名称:SARS-CoV-2)の流行が続いていて、あまり東京で生活している実感がありません。2019年はコンテナ船に乗船していて、海外で肺炎が流行っているというニュースを耳にしましたが、まだ危機意識はありませんでした。これまでもMERSやSARSといったウイルス性の感染症がありましたが、それよりも感染力や変異するスピードが速く、船上での生活も変化しています。これまで乗船の楽しみといえば寄港した港で現地を体験することでしたが、今では本船乗組員が外部の人との接触を避けるために上陸は一律禁止となりました。荷役も本船乗組員が外部の方と接触しないように、乗船する港湾関係者を最小に制限して、必要書類も舷門で渡してもらうなど訪船者と乗組員が接触しない非接触型の荷役を行っています。また国や港のルールが厳しくなり、乗下船が規制されているところもあります。知名度は低いですが医療従事者と並び、エッセンシャルワーカーとして船上で頑張っている世界中の船員にエールを送りたいと思います。



2017 Christmas Party

事務局報告

☆本年は、昨年から継続してまいりました140周年記念事業の完了となります。多くの会員の皆様から寄付を頂きありがとうございました。おかげさまで事業を完遂出来事務局一同安堵しております。また特集記事には、8名の方々に寄稿していただきました。お礼申し上げます。

お知らせ

今年の春の褒章発表で成田寛太郎氏(S41N)が受章されました。伊勢三河湾水先人会で多年にわたり水先業務に従事し、その功績が認められました。同窓の誇りです。おめでとうございます。

特別会員入会のお知らせ

S43年航海科入学の塚田和彦氏が本人の希望と同窓生の推薦により特別会員に入会されました。

母校の発展に寄与し、同窓の交流と親睦の為、私達と共に歩みましょう。

船歌集DVD「鳥羽商船創立140周年記念船歌集 想い出の鳥羽商船」の取り扱いについて

昨年からは着手してきた船歌集は後世に残すべき作品にすべく、歌集に含まれた写真、曲の著作権、作者不明の曲などは順法精神にのっとり作成しました。

法律手続きに予想外の時間と費用を要しましたが、140周年決算は今年11月の理事会において協議承認後、140周年の寄付者と制作協力者に謝礼として配布させていただきます。

そして残った船歌集は寄付を頂いた方に謝礼として配布する予定ですが詳細は理事会で諮ったのち、同窓会ホームページにて周知させていただきます。

お願い

事務局の業務のボランティア募集…

以前にも事務局業務のボランティアを募集しましたが、メンバーは変わることなく従前のとおりです。このままでは、高齢化が進み数年を待つことなく

事務局の運営は出来なくなります。今の時代リモートでの会議もできますし、書類の作成もインターネットでほとんどのことが出来る環境です。

母校の地元である伊勢志摩支部の会員でなくても良いのです。できることは沢山あります。メンバーが揃えば業務も分担できますので参加をお願いします。リモートの会議など知ったような事を申しましたが、私自身は実際には不十分な知識しか持ち合わせていません。しかし為せば成るの精神で挑戦しています。事務局の主なメンバーは75歳～68歳でもう少し若返りをしなければ4年後の同窓会創立100周年事業は危ぶまれます。高齢者でもやる気のある方、元気な方は参加してください。

連絡先変更、勤務先変更などの連絡について

同窓会会報等を発送しても宛先不明で会報等が返送されて来ることが多くなっています。宛先不明者への会報等の発送は無駄と成る為に行いませんのでご理解ください。また個人情報保護に係る事ですが、名簿等への情報掲載の可否も合わせて連絡をして頂きますようにお願いします。同窓会の記録に住所、連絡先、勤務先が開示可となっている場合は、会報

の住所変更には掲載しています。但し住所は〇〇市としています。現在名簿及び会報に個人情報が開示可となっている人でも今後は開示しない場合はその旨を又その逆の場合もその旨連絡していただきます様にお願いします。

同窓会会費納入について

同窓会の活動は多くの同窓生の会費により運営されています。令和2年度の会費収入は約296万円(振替手数料含む)439名でしたが、工学科と若い世代の納入率は依然と低い状態です。(工学科は35名の納入者数)同窓会が永続するためには、会員の理解と支援が必要です。大正14年(1925年)の創設から96年幾多の同窓諸氏が同窓会を支え続け今日に至っております。この事は私達同窓会の誇りでもありますと共に今後も継続して行く事が大切と思っています。同窓の皆様の参加よろしく願いいたします。

西山 明 記

事務局長 江崎隆夫 (S44E)

事務局員 西山 明 (S50E)、糸川 (H16 I)

鳥羽商船創立
140周年記念船歌集
思い出の鳥羽商船
鳥羽商船同窓会

1、鳥羽商船高等専門学校校歌
2、鳥羽商船高等専門学校校歌
3、鳥羽商船学校校歌(旧校歌)
4、白菊の歌
5、練習船の歌
6、日本丸船歌
7、海のロマンス
8、ソカヨ節
9、商船学校十ヶ条
10、大成九三十年の歌
11、海王丸船歌
12、タンツ節
13、日本丸ふな唄
14、グンチョネ節
15、あま月明は淡くして
16、連続丸船歌
17、サニ公節(二)
18、夢呼ぶ海の歌声
19、大成丸世界周航の歌
20、鳥羽商船応援歌
21、豪歌節
22、船のりの夢
23、大成丸帰帆の歌
24、白帆かかげて

我が胸の シーマンシップ いつまでも

・個人で楽しむ場合を除き無断複製を禁じます。
・このCD、DVDを権利者の許諾なく貸貸業に使用することを禁じます。
JAN CD-R-2140480, DVD-R-2140481, 番子:2102813-101
制作:鳥羽商船同窓会 帆船日本丸写真提供:(株)海事教育機構

YANMAR

ヤンマーディーゼル特約店
(株)鳥羽ヤンマー

〒517-0011
三重県鳥羽市鳥羽3-31-30
TEL/0599-26-2818 FAX/0599-26-0820
<http://www.amigo.ne.jp/~tbyanmar/>

代表取締役
江崎 隆夫(S44E・86期)



船乗りはスマートで、目先が効いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗りです

写真提供：S44E 竹内大助氏

ホームページ
スポンサー
募集中!!

スポンサー広告ご協賛企業

ホームページ・名簿のスポンサーを募集しています。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

業務用加湿器のトップメーカー Wetmaster	 烏羽の老舗割烹料理 大阪屋	(株)鳥羽ヤンマー S44/E 江崎
	烏羽ビューホテル 花真珠 女将 迫間まち(旧姓：山門)	
医療法人友仁会 友仁山崎病院 理事長 堀野 幸三 S52E 人間ドックで早期発見	外国船籍登録 ノジマリン	本格コーヒーの香り あなたのオフィスに 090-3258-7902(村田) 35m PIONEER(パイオニア) 新製品と供与
名古屋メッキ工業株式会社 NAGOYA PLATING CO.LTD OUR PRIDE 「水と空気以外はめっきします」	 自動販売機 ご紹介キャンペーン 株式会社フード・テクニカ S55E 稲垣	

学生募集
の
PR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校は皆、学生の確保に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来に向け予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同総会員の御協力を仰ぎたい所存です。学校に御連絡いただければ、A2版ポスター・学校案内冊子・学生募集要項をお送りしますので、下記宛に御連絡いただけますよう、よろしくお願い致します。

独立行政法人 国立高等専門学校機構 **鳥羽商船高等専門学校**

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404
 ホームページアドレス <http://www.toba-cmt.ac.jp/> E-mai gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ

同窓会ホームページ <http://tobashousen-dousoukai.com>

